



港南コミセン（沖見町）



東部地区公民館（南町）



港西コミセン（港町）



港北コミセン（元町）

留萌市では、平成12年3月に「第1次財政健全化計画」、平成17年11月に「第2次財政健全化計画」を策定し、行財政運営の健全化に取り組み、平成17年度から平成21年度までの5年間を集中取組期間として数値目標を掲げ、経費の圧縮や公的資金の借り換えなどの取組を実施してきました。

しかし、平成19年6月「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が成立し、留萌市全体で財政の健全化が評価されることになり、このまま市立病院の赤字（今年度末で約35億の累積赤字）が拡大し続けられ、「財政再生団体」への転落が現実となり、何としても赤字を解消し、財政再生団体の転落を回避しなければなりません。

この赤字解消に向け、留萌市行財政改革推進委員会や留萌市行財政改革推進本部などで幾度となく議論を交わし、「留萌市財政健全化計画（検討案）」を、市立病院は「留

多くの市民の声を反映する計画に 市政懇談会を各地域で開催

留萌市立病院改革プラン（検討案）を作成しました。

この計画内容は、35億円を7年間で解消するため、市民の皆さんに直接係わる市民サービスの大幅な見直しや、子どもたちの教育に関する予算の削減などにも影響を及ぼすような内容となっております。

留萌市では、11月5日から市内7会場において、「市政懇談会」を開催し、延べ252名の市民のご参加をいただき、これまで検討を進めてきた計画の検討案について説明を行い、「職員給与」「温水プール」「税金の引き上げ」「コミュニケーションセンター」「市議会」「病院経営」など、多くの貴重なご意見をいただきました。

市政懇談会に、多くの市民から寄せられた意見や要望、それに対する市長・病院長の回答について、一問一答形式でその一部をご紹介します。

平成20年度 市政懇談会の開催状況及び参加人数

平成20年11月11日現在

月日	時間	場所	参加人数
11月5日(木)	午後1時30分～ 午後6時30分～	港南コミセン	51名
11月8日(土)	午前10時00分～ 午後1時30分～	東部地区公民館	52名
	午後6時30分～	幌糠地区公民館	22名
11月9日(日)	午前10時00分～ 午後1時30分～	港東コミセン	35名
11月10日(月)	午後2時30分～ 午後6時30分～	こさえーる	7名
	午後6時30分～	港北コミセン	26名
11月11日(火)	午後2時30分～ 午後6時30分～	港西コミセン	59名
合計			252名



港東コミセン（高砂町）



こさえーる（藤山町）



幌糠地区公民館（幌糠町）

「留萌市財政健全化計画」「市立病院改革プラン」

身の丈にあった市政に取り組みます

私が、行政の責任者として2年8か月が過ぎ、「誠心誠意」今まで留萌市の市政運営を務めて参りました。市立病院の健全化、医師確保については当初考えていた以上に難しい問題となってしまいました。ここに深くお詫びを申し上げます。

市民の皆さんには、多くの負担をおかけすることになりますが、留萌市が置かれている状況をご理解いただきながら、もう一度市立病院の将来、子どもたちがこのマチに生まれてよかった、お年寄りが安心して生きられる、そういうマチづくりを、市民の皆さんのご理解をいただきながら、取り組んで行きたいと思っております。



留萌市長
高橋 定敏

「医師確保」に全力を注ぎます

この度の財政危機の大半は市立病院の累積赤字であり、市民の皆さんには、本当に大きなご負担をおかけいたします。ここに深くお詫びを申し上げます。

今後は、地域センター病院である留萌市立病院を守っていくために、新たな赤字を出さず単年度収支の均衡を図り、さらに黒字経営となるよう邁進いたします。

そのためには、「医師確保」を自分に科せられた一番の使命として、脳神経外科・循環器科などの固定医を確保できるよう全力を尽くすとともに、市民の皆さんの信頼回復に取り組んで参ります。



留萌市立病院長
笹川 裕

市政懇談会&パブリック・コメント
市民から寄せられたご意見を参考になさせていただきます。

「留萌市財政健全化計画」に関するご意見とご質問など

温水プールぷるも

プールは身の丈に合っていたのか。利用者も水泳サークル程度でほとんどいない。市民感覚とかけ離れている。プールはなくても生きていけるが病院はないと困る。廃止するのであれば仕方ない。

【市長】当時はまだ借金ができる状況で、過疎債などを利用し、子どもたちの夢を叶えるためにプールを作った。

少年団が1万人の署名を集めた。何とかぷるもを維持できないのか。

【市長】プールを守るため、非常に苦しい財政状況の中、職員や皆さんの協力でずいぶん他の経費を削減して努力し、今日まで3億5千万円の市税を投じながら続けてきた。子どもたちの夢を踏みにじる苦しい判断をしなければならないと思っている。

プールの休止とは、再開もあるということか。

【市長】私としては、一旦休止し、計画を進めて病院が順調に健全化に向かったなら、再開できる手立てを講じて行きたい。管理費にも十分配慮していきたい。財政状況がよくなれば7年よりも早く再開がありうる。

当初の運営経費より削減できているので、更なる努力をすると休止しなくとも良いのではないか。

【市長】指定管理者などの努力で利用者の増、経費削減もできたが、それでも管理費をあわせて毎年5千万円は重い。つらい思いであるが、全体を考えるとどうしても負担できない。今回は病院を守るためにはプールの休止を決心せざるを得なかった。

プールの運営費は大きいですが、大人は我慢してもいいので子どもたちの夢を大切にやってほしい。

【市長】子どもたちの教育・夢に手をつけざるを得ないことに心からお詫びし、このまちをもう一度見つめ直して、新たな価値観で、自分たちがどういう生き方をすればいいのかを、子どもたちと率直に話をしながら、留萌のまちの美しさを共有していきたい。

病院も大事であるが子どもは宝である。市長も簡単に子どもにも我慢をせよと言ってしまうのは嫌くない。

【市長】子どもは宝であり、プールは守りたいという強い思いがあったが、毎日救急車で患者が運ばれる姿を見たとき、子どもたちには申し訳ないが我慢していただきたいという気持ちである。

健全化計画全般

ぷるも存続の陳情団に対し市長はノーの返事をした。財政再建にける市長の決意の表れと受け止めている。現実性はどうか。

【市長】今、財政は危機的な状況にある。財政危機宣言を通して、市民の皆さまにはそうした状況を理解してもらいたい。何がなんでも目標を達成しなければならないという強い思いである。

17年にも準準化ということで財政再建をかけたが、そのとおりにはいっていない。今回も絵に描いた餅に終わるのではないか。

【市長】17年の計画とおりには進んでいる。地域医療をなんとしても守るため、新たな計画の策定が必要となった。

夕張になったら大変だといわれているが、どの程度なのか。財政再生団体になってしまったら、普通のまちに戻るのには難しいのか。

【市長】市全ての事業に国の許可が必要になる。国の指導で市民に相当の負担がかかることになる。再生団体になったらまちの経済そのものが破綻してしまう。何がなんでも避けなければならない。

市民が見直し項目に対して反対となればどう対応していくのか。計画は延びることになるのか。

【市長】この計画で提示した数字の中でやり繰りをしないと財政危機を乗り越えられない。病院特例債を借りて本来5年で立てないとならない計画を、財政規模も考慮し7年に延ばしてもらった。国の指導の中ではこれ以上延ばすことはできない。

人口減少の中で5億円を7年間も出せるのか不安を感じている。これだけの負担を受け、自然減、支庁制度改革、開発局の廃止意向などもある。

【市長】国の出先機関、道の出先機関の再編の問題もあるが、それらを含めた人口動態を考慮しながら、状況によっては4,000人も減少を見なければならず、それを見込んで数値は出している。

市民にかなり負担をかけるものである。早く再生団体になってもらいたい。第三者の意見を入れ、これが正しいのか判断をしたほうがいい。

【市長】まちを第三者にゆだねることは考えていない。その道を選ばず再生団体を避け、市民と行政と議会が一緒になって情報を共有して留萌の再建をし、地域医療を守っていく。

地域コミュニティ

地区公民館は歴史がある、地域にとって交流の大切な場。一気に切られると、このまま運営を続けるのは無理だが、地域としてはなくしたくない。段階を追って3年とかで見直しをしてほしい。

【市長】地域コミュニティは一番大切と考えている。各地の意見も聞いた上でしっかり議論していく。

歳入・税率引き上げ

固定資産税、軽自動車税は毎年あげていくのか。黒字に転換したら、税率アップはやめるのか。

【市長】毎年ではなく、税率を7年間一定の率にする計画です。財政状態が黒字になれば、意見交換しながら戻していきたいと考えている。

固定資産税は国民健康保険税にも影響してくる。そういう影響を考え、増税だけはやめてほしい。

【市長】計画の中では大きな部分を占めるので、何とか協力していただきたい。1年でも早く病院が立ち直ったなら、行政と市民が一体となって市民の満足度を高めていきたい。

職員給与

職員給与をかなり削減するが、看護師とか人材確保は大丈夫なのか。

【院長】医師・看護師が足りず休んでいる病床がある。給与削減で減ることがあれば本末転倒な話で、単純にカットすると内部崩壊にもつながりかねない。確保策・対応策を練って、どの辺が妥当なのか検討していきたい。

危惧しているのは、市民の負担は計画どおりで、職員給与の削減が最終的に減ること。市長に計画どおり職員給与の削減をやり通す決意を聞きたい。

【市長】今回の計画は市民にこれだけの痛みを与えるわけであり、職員にも地域医療を守るために計画実施に当たっての痛みを理解してもらいたいという強い思いである。

夕張・赤平は30%削減となっている。20%で十分と考えているのか。多くの市民から理解してもらえるのか。

【市長】赤平は全くやってきていなかった。30%削減も1、2年の間だけ。留萌はこれまで10年間給与削減を実施してきている。理解していただける数字と思っている。

20%の削減は職員には大変な負担で理解できるが、やる気のある職員の意欲を削ぐ危惧がある。

【市長】今回の計画はやっていかなければ財政再建はできない。職員一人ひとりが政策立案能力を高め、使命感、責任をもって任務を果たしこの財政状況を乗り切っていこうという願いをしている。

市議会

議会にも責任がある。議員はどう考えているのか。

【市長】市議会において、市民の痛みを感じながらしっかり議論されるものと思っている。



「留萌市財政健全化計画」 「留萌市立病院改革プラン」

検討案に対して寄せられた市民からの声(パブリック・コメント)

【市】今回の財政健全化計画では、財政破綻を防ぐとともに、市民の生命に関わる地域医療を守ることを最優先と考えています。

市内の民間病院に足りない診療科を、市立病院で賄えば良いのでは。

【市】市の財政状況を考えると、1施設で毎年約4千万円の赤字補てんは、体力を超えた大きな負担となります。子どもたちのための予算に手をつけなければならぬと、まずは市立病院の35億円という赤字を解消し、地域医療を守らなければならぬと判断しています。

【市】議員定数16名は、都市の中でも、最少レベルです。

市議会議員の定数を削減し、歳出削減をしては。

公共施設や教育を犠牲にし、市立病院だけに多額の税金を投じることには反対。

市立病院

10月27日(月)から11月17日(月)まで実施しました意見募集について、個人10名と2団体から述べ48件のご意見が寄せられました。その中から主なご意見と、それに対する市の考え方を紹介します。

意見の内訳

内 容	件数
市立病院	17件
温水プールぶるも	10件
職員給与	5件
留萌市議会	3件
コミセン	1件
その他	12件
合計	48件

温水プールぶるも

【市】全ての診療科において、民間病院だけの24時間体制の確立はできないため、市立病院における24時間体制の維持が必要となります。

ぶるも愛好者は受益者負担の増加は覚悟しています。営業時間の短縮、館内の掃除なども自ら協力します。子どもたちの水泳(教育)・お年寄りの楽しみ、リハビリ、健康管理をお願いします。

職員給与

【市】留萌市は、赤平市とは状況が違い、平成11年度から10年間、給与削減を続けてきています。

職員数も今年度末には平成11年度と比較して150名を越える減少となっていることから、今回の20%の削減案は厳しい内容であると考えています。

コミセン

【市】コミセンは、町内会行事や集会など、地域コミュニケーション活動の場として利用されており、それぞれの地域に必要だと考えています。

報酬などについては、市議会において、市民の皆さんのご意見なども踏まえ議論され、結論については計画に反映されると考えています。

お礼の言葉

今回紹介できなかったすべてのご意見は、市ホームページと市役所の市政情報コーナー等で公表しています。ご意見をお寄せくださいました皆様にお礼申し上げます。なお、意見に対する回答は、後日個別に送付させていただきます。

「留萌市立病院改革プラン」に関するご意見とご質問など

市立病院の経営

新たな赤字を作らないプランになっているが、今まで努力していてもこの状態である。本当に計画どおり行くのか。

【院長】国に提出するプランは確定していない部分を盛り込めないで、最低限の計画になっている。27年度で達成可能。プラス要因で達成されれば計画を良い意味で修正していきたい。

地域医療を守るのは留萌市だけではない。管内全体で取り組んでいくべきではないか。

【市長】道は「二次医療機関として守る」周辺町村は「支援して維持しなければならない」という考え方であった。町村会などでも議論し理解をいただいているが、実際の支援の面については町村それぞれの議会の中でも議論されていくものと思っている。

国の政策によって大きな影響を受けている。留萌の制度改正で収入が減ったわけではない。なぜ地方や市民の努力だけなのか。

【市長】国の医療制度は間違っていたと思う。全国、全道市長会でも医療制度改革に対する批判があり、国に対し地方の自治体病院を守るための施策を求め、病院特例債という制度も認めてもらった。

市立病院の未収金はいくらあるのか。未収金対策はしっかりするべき。

【院長】これまでの未収金は10月末で1.3億円あり、徴収専門担当が広域に訪問などをして回収している。その額が年間約2,400万円。しかし、新たな発生分もある。土・日に徴収できる体制などを整えたので、徴収漏れのない様に対応して行きたい。

再生団体になってしまった場合、病院はどうなってしまうのか。

【院長】不採算部門は全てやめるよう国から指導されると思われる。救急、小児、産科はなくなるなど規模が縮小され、毎回旭川に救急車で搬送することになり、公立病院としての機能が維持できなくなる。夕張・赤平も機能低下に陥っている。

市立病院の悪い話は伝わるが、良い話は伝わらない。市民に赤字を解消し市立病院を守るとの思いがあるのであれば市立病院を使い、病院も市民の期待にこたえられるよう取り組んでほしい。

【院長】一朝一夕ではいかないが、私自身が係わり徹底した職員の意識改革・教育・指導体制を取ることを約束するので、ご理解願いたい。

優秀な医師を確保して医師を増やせば、患者も増え収益は上がると思う。

【市長】消化器病センターの南医師は多くの症例をこなしている優秀な医師。笹川院長も札幌医科大学の教授になった。その教授が市立病院の院長を務めていることで、いい方向に向かい優秀なスタッフが集まるものと期待している。

脳神経外科と循環器科の固定医師を増やす計画だが、市内開業医との競合で収益が上がるのか。

【院長】市内の年齢構成を考えると、あと20年くらいはガン、脳梗塞、心筋梗塞、肺炎の患者が増えることが予想される。開業医は、医師が一人であり全てに対応するには難しい状況。この地域では一病院だけでは十分でない。

ご意見をもとに計画案をまとめていきます

今回、市民の皆さんから寄せられた貴重なご意見・要望、パブリックコメントをもとに、「留萌市財政健全化計画」「留萌市立病院改革プラン」をまとめていきます。計画が決まり次第、広報するもいや留萌市ホームページでお知らせします。

お問い合わせ先

財務課 ☎42・1813 / 留萌市立病院 ☎49・1011 / 市・企画調整課 ☎42・1809